

金山診療所の現在

町立金山診療所
所長 高橋 鴻志

皆さんこんにちは。町立金山診療所の高橋です。前回はがん予防に關連して、がん検診の話をしました。今回は同じくがん予防について、別の角度からお話しします。

がんを早く発見し、治療するのは素晴らしいことです。一方で、理想としては、そもそもがんにかからないことができれば、それが一番でしょう。高齢化が進む現代、ますます多くの方ががんにかかっており、がんはありふれた病気になりつつあります。しかし、発がんするリスク(危険性)を下げる方法もあるのです。それはなにか?答えはシンプルです。タバコを吸っている方は、まず禁煙すること。タバコは肺がんだけでなく、非常に多くのがんの発病に關わっています。多額のお金をかけて人間ドックを受けるよりも、禁

煙に苦勞されている方は、気軽に診療所にご相談ください。私達の診療所では禁煙外来を実施していますので、あなたが禁煙できるようにサポートすることができます。また、お酒を飲みすぎる方は、お酒を減らすことが効果的です。せめて休肝日を作るところから始めましょう。肝臓がんや膵臓がんのリスクを下げることもできます。他にも、食事を薄味にして塩分を減らすことは胃がん予防に効果的です。運動もよいでしょう。適度な運動は乳がんや大腸がんを予防します。

どれも地道で目新しいことではありません。しかし、大切なことはいつも地道なことの中にあります。もちろん、私たちは健康になるために生きているわけではありませんから、生活を犠牲にするような極端な食事制限や、ハードなトレーニングをする必要はないでしょう。そうではなくて、普段の生活の中から、自分の体を傷つけたり、鈍らせたりするような習慣を減らしていくのだと考えてください。タバコを吸ったり、お酒を飲みすぎたり、テレビを見ながらお菓子をいくつも食べたり、ソファとベッドを行き来してゴロツとして過ごしていたり...そのような、自分でも「これは良くないな」と思っているようなことです。そういう習慣とお別れをすることが、がんの予防になっていきます。

「わたしと金山」 No.15

林 寛治

金山小学校

新校舎設計着手に至るまで

当時2期目の岸宏一町長から小学校校舎新築の打診があったのは、私が保育園増改築工事を設計している最中でした。岸英一町長に相談してとのことと聞きまして。英一前町長曰く、最上郡内市町村は、先を争って鉄筋コンクリート造の「本建築」を10年ほど前から建て続けてきたが、郡内の施工業者が大手の下請けだとしても技術的に未熟と見て、金山では建設を今まで抑えてきた(例外として町民には中央公民館が必要であり、大手建設と経験ある庄内の設計者に委託した)。しかし「機

は熟してきた」と思う。との由でした。

私は太平洋戦争末期の昭和19(1944)年8月に東京から疎開して金山国民学校2年に転校しましたが、校舎は直前の1月に高等科と体育館を残して焼失してしまいました。このときの様子は本

連載の1回目に書きました。

3代目校舎は2代目の平面に倣った建物でした。米軍占領時期下に時の町長をはじめとする有力者が資金と資材を出し合い、町内の棟梁たちが参加して建てたものです。これは都市部以外で戦火を受けた全国各地の状況でもあり、同時に明治・大正以来、連続と続いてきた「地産地消と自立」の体現でもあったのです。この3代目の校舎が再建されてから30年近く経っていました。

岸宏一町長から与えられた条件は、仮設校舎は準備しないこと、既存校舎で門から手前の2教室分くらいは切っても良いが、その範囲内で納めることでした。大山教育長からは県を通じての郵政省からの補助金による計画なので山形県建築条例に従うこと、そして並列教室にすることを求められました。当時小中学校のプロジェクトは全国花盛りで、楽しげなオープン教室などが建築雑誌を飾っていました。実験的設計はダメと念を押されたわけです。

次なる難題は建物基礎についてです。地質調査の結果、支持地盤の深さは手前側で6m、8m、楯



交通安全コラム 第9回



春の交通安全県民運動期間

「全国交通安全運動」について

おさらいしましょう

毎年実施される「春の交通安全県民運動」。今年は5月11日から20日の期間となっています。

交通事故の防止を目的としたこの運動ですが、そもそも何がきっかけで、いつから始まったのでしょうか。今回は「全国交通安全運動」について紹介します。

※「交通安全県民運動」は山形県の呼び名で、全国的な総称は「全国交通安全運動」と呼ばれています。

▼全国交通安全運動の始まり

全国交通安全運動の始まりは、昭和23年(1948年)で、今から70年以上も前から行われています。戦後に交通需要が高まり、自動車による事故が増加したことがきっかけでした。

▼実施時期について

全国交通安全運動は、春は4月6日から15日までの10日間、秋は9月21日から30日までの10日間で行われます。

春は新入学児童や運転免許を取得したばかりのドライバーが増える時期です。また、秋は日が暮れる時間が早くなり、歩行者などが見えづらくなる時期ですので、重点的な交通安全の啓発が必要であることから実施しています。

▼今年はなぜ5月に実施なの?

原則として、春の全国交通安全運動は4月に実施されますが、例外的に、統一地方選挙が開催される年は、春の全国交通安全運動の時期が5月に移動されることになっています。令和5年度はこの例外に該当する年になり、実施時期がいつもより遅くなるのです。

今年も全国交通安全運動をはじめ、交通安全に関する様々な運動や活動が予定されています。ドライバーや歩行者の皆さんは、日頃から交通ルールを守り、正しい交通マナーで無事故無違反を心がけましょう。

山に近付くにつれ広範囲に36m、40mであることが判明しました。これまでの軽量な木造では問題とされてこなかったことですが、その昔、小学校が建てられる以前の楯山の麓は沼だったのです。結果として直径400mmのコンクリート杭を36m(12+12+12)×6本、30m(10+10+10)×70本+aが本建築・校舎の壁柱を支えることになりました。

衝撃音から今では許されない杭の打設工事は、打ち継ぎを含めて工期もかかりますし、申請年度内完成を守ることからも、夏休み中に終えなければなりませんでした。従って設計工事監理上の工程打ち合わせも綿密に行うことが求められました。金山町保育園増改築工事の仕上げ工事が始まる時期に金山小学校校舎の建築確認を得る段取りだったと思いますが、教育委員会次長の星川廣さんが建設事務所から県までの町側事務手続きを細やかに勤めてくれたおかげで、設計に集中することができました。また、弟・隆三の中学同級生だった、天野郁生君が藝大建築の後輩で我が家の近くに住んでいたこともあり、めばえ幼稚園以来、

金山町立病院完成まで設計に協力してくれたので、大いに助かりました。

構造設計は、めばえ幼稚園以来のつきあい、剛設計事務所の高橋氏に委託しました。当時の剛事務所は東京で活動しており、打合せは東京で行っていましたが、剛事務所は山形の本間事務所の構造もほとんど担当していたことから山形との往復も密であり、金山での配筋検査にも足を伸ばしてもらうことができました。なにより高橋氏は豪雪地の大石田出身で、積雪荷重の扱いに關して心強い存在でした。



▲金山小学校3代目校舎(白い屋根部)を含む金山町中心部 昭和23(1948)年[国土地理院航空写真]